

【にんげん部門・佳作賞】

伝えたい思い

札幌大谷中学校 2年 内田 舞翔

「ありがとう」

ぼくは今まで、家族に何かしてもらったり友達に助けてもらった時に、この「ありがとう」という言葉を使ってきた。でも今回、初めて、今までに会った事もない、そしてきっと一生会う事のないだろうこの見知らぬ人に感謝の気持ちを込めて「ありがとう」を伝えたい。そんな出来事の話だ。

今年の5月、ぼくはうっかり野球帽を失くしてしまった。部活の帰り、友達と地下鉄の駅まで歩いていた。少し小雨だったので、帽子をぬいで手で持っていた。はずだった。地下鉄に乗ってすぐに気づき、あわてて降りてひき返し、今通つて来た道を探した。一緒にいた友達も探してくれた。地下鉄の駅員さん、近くのスーパーの店員さん。もし見つかったら連絡をくれるようにお願いをした。監督にも連絡した。「もし、ぼくが帽子を拾ったらどうするだろう？落とした人がすぐ見つけられるようにするにはどうするだろう？」その夜、色々と想像した。外は日中よりも雨が強くなっていた。雨にぬれて、車にでもつぶされいたら…ぼくは後悔した。もっと注意深く行動していたら、と。母は新しく帽子を注文してくれ、二つ持っている友達が届くまで貸してくれる、と言ってくれた。

次の日、気が重いまま放課後の部活に出た。迎えに来てくれた父が持っていたのは、ぼくの帽子。母から話を聞いた父が、あちこち探してくれたのだ。スーパー近くの電話ボックスの中にあった、と。「良かった！ぬれていらない！」誰かが拾って、ぬれないように、と入れてくれたんだろう。地下鉄の駅員さんにもスーパーの店員さんにもすぐに連絡をした。

どんな人が、帽子を拾ってくれたのかわからない。でも心から感謝した。拾ってくれて雨にぬれない所においてくれて、ぼくはとても温かい気持ちになった。これからは、ぼくも、相手の気持ちを考えられるような人になりたい、と強く思った。今度は、僕の番だ。